生活者通信

生活と政治をつなぐ情報紙

No.379
2023.4.1

東京・生活者ネットワーク

発行　東京・生活者ネットワーク
〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189　FAX.03-3200-9274
E メール　tokyo@seikatsusha.net
URL　https://www.seikatsusha.me
発行責任者　山内玲子
定価 年間1000円・1部100円　郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行　1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワークは東京都内34の自治体にあり、都議1人、市・区議40人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。

生活者ネット候補予定者紹介

区議選・市議選に、39人の候補予定者の擁立を決定しました

■江戸川区

伊藤ひとみ（いとう・ひとみ）1962生まれ。2015年～江戸川区議。みんな違うからおもしろい！　多様性を認め合う地域社会をめざします。

本西みつえ（もとにし・みつえ）1966年生まれ。2015年～江戸川区議。人と人とをつなげ、誰もが自分らしく生きることができる社会をつくります。

■江東区

千葉さきえ（ちば・さきえ）1979年生まれ。2019年～江東区議。生活者ひとり一人が声を上げられる市民自治の地域づくりをすすめます。

■品川区

田中さやか（たなか・さやか）1982年生まれ。2015年～品川区議。今を戦前にさせない！人権が守られる社会を品川から実現していきます。

吉田ゆみこ（よしだ・ゆみこ）1954年生まれ。2015年～品川区議。品川区を福祉・環境優先のまちにするために3議席を確保します。

いながき孝子（いながき・たかこ）1966年生まれ。2022年～品川区議。政治を変えるのは地域から！市民自治のまちづくりを実現します。

■杉並区

そね文子（そね・ふみこ）1968年生まれ。2011年～杉並区議。持続可能で、誰もがその人らしく生きられる社会を目指しチャレンジします。

奥田雅子（おくだ・まさこ）1960年生まれ。2015年～杉並区議。孤立をさせない！困ったと言える、たすけあいのある地域をつくります。

■世田谷区

高岡じゅん子（たかおか・じゅんこ）1960年生まれ。2011年～世田谷区議。気候危機対策は今後4年が勝負。持続可能な世田谷へ全力で取り組みます。

金井えり子（かない・えりこ）1964年生まれ。2019年～世田谷区議。「子どもの笑顔を守りたい」子どもの権利が尊重される社会を目指します。

関口江利子（せきぐち・えりこ）1974年生まれ。生活者ネット政策委員。多様性を認め合い、安心してその人らしくいられる社会を目指します！

おのみずき（小野・瑞季）1992年生まれ。生活者ネット政策委員。女性も自由に健康に安心して生きられるまちづくりを世田谷から進めます！

■中野区

細野かよこ（ほその・かよこ）1962年生まれ。2015～19年中野区議。ケア、子どもの権利、環境優先のまちづくりを市民参加で！

やない克子（やない・かつこ）1962年生まれ。2014年～練馬区議。福祉・環境優先、人権と多様性を認め合う地域社会の実現に取り組みます。

■練馬区

やまさきまりも（山崎・まりも）1976年生まれ。生活者ネット政策委員。安全・安心な食と地球環境を次世代に！地域循環型のまちづくりを。

■目黒区

増茂しのぶ（ましも・しのぶ）1964年生まれ。生活者ネット政策委員。誰もが自分らしく暮らせるまち・目黒を目指して市民の議席を確保します。

■稲城市

村上洋子（むらかみ・ようこ）1955年生まれ。2015年～稲城市議。オーガニック給食でひとも土もまちも元気に！まちを耕しバリアをなくす！

■狛江市

まつざき淑子（まつざき・よしこ）1959年生まれ。2019年～狛江市議。現職の経験を活かし、市民の声を市政につなぎ支援のしくみをつくります！

小木てつろう（おぎ・てつろう）1959年生まれ。生活者ネット政策委員。報道現場に40年／発信力で狛江を変える／災害から市民を守る／子育て全力支援。

■多摩市

岩崎みなこ（いわさき・みなこ）1960年生まれ。2015年～多摩市議。2期8年の経験を活かし、誰もが自分らしく過ごせる社会の実現を目指します。

岸田めぐみ（きしだ・めぐみ）1983年生まれ。2019年～多摩市議。みんなの人権が守られ、子どもたちが希望をもち成長できる多摩市にする。

■調布市

木下やすこ（きのした・やすこ）1973年生まれ。2019年～調布市議。子どもや弱い立場にいる市民の小さな声を聞き、民主主義と平和の実現を！

■八王子市

金子アキコ（かねこ・あきこ）1976年生まれ。生活者ネット政策委員。政治は希望のツール！バトンをつなぎ、子どもの未来につながる提案を。

玉正さやか（たましょう・さやか）1983年生まれ。生活者ネット政策委員。小さな声に丁寧に耳を傾け、一人ひとりに寄り添った政策をすすめます。

■府中市

奥村さち子（おくむら・さちこ）1963年生まれ。2019年～府中市議。在宅介護体制とケアラー支援の充実に向け、地域から声をあげていきます。

■昭島市

林まい子（はやし・まいこ）1977年生まれ。2019年～昭島市議。市民とともにつくる、自分らしく希望をもって暮らせる持続可能なまちへ！

かてな真樹（かてな・まき）1977年生まれ。生活者ネット政策委員。食、農、環境、命と人権を守り、誰もが自分らしく豊かに生きるための政治。

■清瀬市

小西みか（こにし・みか）1966年生まれ。2011年～清瀬市議。だれにも居場所と出番と役割があり、一人ひとりを大切にするまち、清瀬に。

■国立市

こはまかおる（古濱・薫）1974年生まれ。2019年～国立市議。すべての子どもに多様な居場所と、いのちが大切にされる地球環境を！

なかたにあやこ（中谷・絢子）1980年生まれ。生活者ネット政策担当。誰もがやりたいと想ったことができ、助け合えるまちのシステムをつくる。

■国分寺市

高瀬かおる（たかせ・かおる）1961年生まれ。2011年～国分寺市議。ケアする人の生活とケアされる人の幸せを同時に叶えるしくみをつくります。

小坂まさ代（こさか・まさよ）1969年生まれ。2021年～国分寺市議。おとなも子どもも「そのままでいい」と思える居場所を増やします。

松岡まり（まつおか・まり）1984年生まれ。生活者ネット政策担当。一人ひとりが「やりたいと想ったことができる」「応援しあえる」まちにします。

■小平市

さとう悦子（さとう・えつこ）1964年生まれ。2015年～小平市議。いのちをつなぐ環境をまもるために、地域の中で地道に取り組みます。

柴尾ひろみ（しばお・ひろみ）1964年生まれ。生活者ネット代表。小さな疑問は豊かな未来を創る種子。ケア現場で感じた「なぜ？」を政治につなげます。

■東村山市

白石えつ子（しらいし・えつこ）1959年生まれ。2015年～東村山市議。誰のいのちも大切に、違いをみとめあうまちを市民参加でつくります。

■東大和市

関あや子（せき・あやこ）1979年生まれ。生活者ネット政策委員。大人も子どもも思ったことが発信できる市民参画のまちづくりを進めます。

■福生市

三原智子（みはら・ともこ）1967年生まれ。2015年～福生市議。子どもを真ん中に、多様性を認め合い誰もが大切にされる共生のまちづくり。

■武蔵野市

西園寺みきこ（さいおんじ・みきこ）1958年生まれ。2011年～武蔵野市議。やっぱり市民目線が必要！　ネットにしか言えない発言を続けていきます！

2023統一地方選 生活者ネットワークの提案

コロナで明らかになった社会課題に向き合う
～安心できるくらしを誰にでも

●非常時にも誰もが守られる保健・医療体制をつくる●感染症対策を避難所運営のスタンダードに●コロナ禍で顕在化した貧困を元から断つ

市民参加で政治を使いこなす！
～生活の視点からの提案で社会のしくみを変える

●市民自治のまちづくりをすすめる●市民にひらかれた自治体議会をつくる●平和・多民族共生のまちをつくる

子どもにやさしいまちづくりを！
～子どもは権利の主体！「今を生きる」子どもをはぐくむ

●子どもの権利条例をつくる●すべての子どもに学ぶ機会を！●子育てを一人にしない、子育ち・子育て支援を広げよう！●子どもの生きる環境を守り、子どもの育ちと食の安全を守ろう！

だれもが自分らしく暮らせるまちに
～縦割りから包括的な切れ目のない支援へ、地域のネットワークで支え合う社会に

●個人の自己決定を尊重しあい、互いを認め合うインクルーシブな社会へ●ケアする人もされる人も大切にされる社会へ●住まいは人権――すべての人に住まいの保障を●コロナにより顕在化した貧困の連鎖を断つ

ジェンダー主流化で　私が私のままでいられる社会へ
～すべての施策をジェンダーの視点で見つめ直し、多様性を認め合う共生社会を実現する

●女性の人権を国際基準に！ジェンダー・ギャップ指数脱三ケタを足元からすすめる●私の身体は私のもの。SRHRの視点をあたりまえに●女も男も生活者！働き方と社会のしくみを変えていく

いのちをつなぐ環境をまもる
～持続可能な地球環境と暮らしを市民とつくる

●循環型社会にシフトし気候変動をストップ　●食とエネルギーの自給率アップと地産地消を推進する●安心して暮らすための社会インフラ

生活者ネットワーク3つのルール

1. 議員は交代制（ローテーション）
2. 議員報酬は市民の政治活動資金に
3. 選挙はカンパとボランティアで

生活と政治をつなぐ情報紙
生活者通信 No.379 2023.4.1 〈第三種郵便物認可〉

Information

講演会　原発大回帰に抗して
4月20日（木）18：30～　東京ボランティア・市民活動センター会議室（飯田橋駅）　講師：コリン・コバヤシ（フリージャーナリスト/著述業/映像作家）、崎山比早子（元放医研主任研究員/3・11甲状腺がん子ども基金代表理事）　500円　連絡先：attac首都圏
havanaferme@gmail.com（担当：根岸）

原発いらない金曜行動
4月21日（金）18：30～19：45（原則第3金曜日）　首相官邸前（国会議事堂前駅、永田町駅）
発言予定：鎌田慧、落合恵子　市民のスピーチリレー「原発いらない金曜行動」実行委員会
https://nonukes0311.blog.fc2.com/

あらたな戦前にさせない！
守ろう平和といのちとくらし2023憲法大集会
5月3日（水・休）11：00～サブステージ　13：00～メインステージ　14：30デモ出発
有明防災公園（国際展示場駅、有明駅）　平和といのちと人権を！5・3憲法集会実行委員会
http://kenpou2020.jp/

東京・生活者ネットワーク
都議会REPORT

都議会第1回定例会一般質問より
子どもにやさしいまち東京へ

東京・生活者ネットワーク都議会議員
岩永やす代［国分寺市・国立市］

コロナパンデミックが始まって3年、ロシアのウクライナ侵攻から1年、食料やエネルギーが高騰し世界情勢が不安定化するなか、トルコ・シリアでは大地震が起こり、一方、日本政府は、きちんとした説明もなく国会議論さえ無力化して、防衛費倍増や原発推進などキナ臭い政策をごり押ししています。都議会第1回定例会（2月15日～3月24日）には、東京一人勝ちと言われる都税収入を背景にした過去最大規模の予算案が提出されました。

2月24日、岩永やす代が一般質問に登壇。汚職まみれで無責任体質が露呈したオリンピックの後始末や地下水のPFAS汚染、気候危機対策、子ども・若者支援、介護ヘルパーなどを取り上げました。

外国にルーツのある子どもへの支援は子どもの権利の視点で

日本語を母語としない、外国にルーツのある子どもが増えています。ありのままの自分で安心して過ごしたり、孤立しがちな子どもたちが人間関係を築いたり、親子で安心して過ごせる居場所の重要性は増しています。

2023年度予算で新たに始まる、自治体と連携した多文化キッズコーディネーターの配置や、多文化キッズサロンの支援の充実にむけ質問しました。都は地域で活動している国際協会や子ども食堂とも連携しながらすすめていくとのことです。

日本語の支援が必要な外国にルーツのある子どもの高校中退率は、2021年度に6・7％で、全体の中退率1％の6倍以上です。外国人は高校卒業資格があれば、週に28時間の就労制限なく働けるため、高校卒業資格は子どもの将来に大きく影響します。支援の充実を求めたところ、「2023年度から日本語の支援が必要な生徒が在籍する全ての都立高校に日本語支援員を配置する」との答弁がありました。支援の充実につながることを期待しています。

双子用ベビーカーで安心して外出できるように

2022年6月から都内の全路線のノンステップバスで、双子用ベビーカーが乗車できるようになりました。しかし双子用ベビーカーの利用者からは、「混雑している場合には乗車を見送らざるを得ない」「ベビーカーを持ち上げることができずに乗車できなかった」「乗車できたとしても、急に泣き出したり、不慣れなベビーカーの扱いなど子連れでの移動には心配がつきない」など、外出時の苦労について多くの声があがっています。公営交通こそ、人にやさしいユニバーサルな交通機関であるべきです。ベビーカーでのスムーズな乗り降りができるよう、車両のハード面の整備も必要ですが、当事者のニーズを聞き、今後の取り組みに活かすことを求めました。

車椅子利用者やベビーカーを利用する子育て世代が、外出するとき、安心してバスや電車で移動できるように、乗車時のアナウンスで周囲の理解をすすめるなどソフト面の対策も求めました。

都営交通で初めて授乳室を設置！

生活者ネットワークでは、子育て支援として都営交通に授乳やおむつ替えのできる「赤ちゃんふらっと」の設置を求めていましたが、今年2月から都営地下鉄大江戸線上野御徒町駅に、都営交通で初めて授乳室が設置されました。しかし残念ながら、おむつ替えはできません。小田急線など私鉄では、駅構内に授乳やおむつ替えのできる「ベビーケアルーム」の設置がすすんでいます。利用者や子育て世代の声を聞きながら、都営交通でも授乳室の設置を増やすことを求めました。

▲都営地下鉄大江戸線 上野御徒町駅に設置された授乳室
◀双子用ベビーカーでバスに乗るのは大変！
▶左上：駅の授乳室：小田急線下北沢駅ではおむつ替えができるが、都営地下鉄上野御徒町駅はできない

都政NOW 区市とつなぐ

ハラスメントを見過ごさない！社会を変えるアクションを起こそう！

西東京・生活者ネットワーク市議会議員
後藤ゆう子

昨年末の西東京市議会議員選挙で、3期目の議会に送り出していただきました。任期開始直後の1月23日に開催された新任議員全体会開始直前にそれは起きました。

隣席の当選10回71歳の最古参男性議員から「なんで戻ってきたの。あなたは議会人じゃない。専業主婦になりなさい」という思いがけない暴言を投げられ言葉を失いました。偶然それを聞いた女性議員が「そんな失礼なことを言わないでください」と制し、その日はそれで終わりましたが、これは私に投票してくださった方への侮辱であり、性的役割分業を固定化する看過できない発言です。これまでも同様の発言を繰り返し受けていたことから、翌日、西東京・生活者ネットワークから抗議文を当該議員に手渡しました。

この事案が朝日新聞、読売新聞、東京新聞に掲載され、市民のみならず広く大きな反響がありました。私はこの問題を特定議員間のハラスメント問題と矮小化すべきではないと考え、市議会全体でハラスメントをなくしていくべきだと、前述の女性議員と協力し、西東京市議会全体に働きかけました。

ハラスメントのない西東京市議会をめざす決議―全会一致で可決

その結果2月3日の臨時会で議長が提案者の「ハラスメントのない西東京市議会を目指すことに努める決議」が全会一致で可決されました。議長からも、市民に対してこの問題に真摯に対応するとの声明も出され、議会全体の問題に引き上げられたことは成果だと考えています。なお、当該議員は診断書を提出し会期は全休でした。

西東京・生活者ネットワークでは2月18日に緊急アクションとして、ジェンダーが専門分野の中央学院大学准教授の皆川満寿美さんを講師に「ハラスメントをもう見過ごさない！社会を変えるアクションを起こそう！」という学習と意見交換を行いました。会場は満席でオンライン参加もあり盛況でした。「ジェンダーハラスメントを黙認しない」「男性中心社会の再生産を見過さない」「誰もが差別されない包摂型社会の実現」をめざそうと共有した、前向きで明るい会となりました。

▲2月18日にパスレル保谷で開催した「ハラスメントをもう見過ごさない！社会を変えるアクションを起こそう！」　皆川満寿美さん（中央）と参加者の皆さん
▶中央学院大学准教授の皆川満寿美さん（左）後藤ゆう子（右）

●**訂正とお詫び**　№378（2023年3月号）1面「東京・生活者ネットワーク　2023新春の集い開催！」記事で、講師の能條桃子さんのお名前を、能篠さんと誤記したところがありました。お詫びして訂正します。

編集後記／原発再稼働・運転期間延長方針が閣議決定され、3・11を教訓に合意したはずの原則40年ルールが無きものにされようとしている。これを容認した「原子力規制委員会」とは何か。その役割は「原子力にかかる製錬・加工・貯蔵・再処理・廃棄、原子炉に関する規制・安全確保と核原料物質及び使用に関する規制…」であることが空疎どころか空恐ろしい。生活者ネットは設立以来、原発が孕む危険性、立地にかかる地方差別…等々山積する問題点に着目し「今ある原発は順次閉鎖、新たな原発は造らせない」基本政策のもと活動してきた。3・11東電原発事故ののちは、福島の原発で作られた電気を存分に使ってきた東京都民の責務として、「稼働の是非を問う都民投票条例」を求め直接請求運動を市民とともに組織、各地で事務局機能を担った。条例は都議会の壁に阻まれた結果であったが、私たちはこれからも原発の危険性、安全規制の問題点を発信し続けます。（加藤）

「生活者通信」の購読者を募集　●定価：年間1000円
［お申し込み方法］郵便振替をご利用ください（手数料ご負担ください）。振り込みが確認され次第、「生活者通信」をお届けします。
お名前・ご住所・〒番号・電話番号・開始月を明記、口座番号 00130-3-18417　加入者名「東京・生活者ネットワーク」